

日進市障害者自立支援協議会 専門部会実施報告書

報 告 者	三宅 恵里子	市確認欄	
専門部会名	第 3 回	就労部会	
日 時	令和 8 年 8 月 28 日（金） 14 時 30 分～16 時 00 分		
会 場	日進市障害者福祉センター 大会議室		
出 席 者	部会員 11 名		事務局 4 名
	※出席者名簿は、別添のとおり		
傍 聴 者	有り・ ☐ なし		
次第	1 令和 8 年度学校卒業後の進路を考えるための障害福祉サービス説明会について 2 子ども部会との共催について 3 一般就労について 4 本日の決定事項のまとめ及び、次回の検討課題について		
報告・検討 の内容	1 令和 8 年度学校卒業後の進路を考えるための障害福祉サービス説明会について (1) 令和 8 年度の振り返り アンケート結果を共有した。 他市では、進路説明会の中で生活介護の説明を行っているが生活介護に関する情報量が少ないという声を聞いている。 →日進市でも同様な声を聞いており、対応していけると良いため検討が必要である。 個別相談の希望者は 2 件あったが本年度は、自立支援協議会での意見をふまえ、説明を重視する構成とした。 →部会員からは、発表者ごとに相談ブースがあると良い、講演を聞いた上で保護者が気になったことを個別で相談出来る場があると良いとの意見があった。 →運営負担や時間確保が課題となる。 説明会の事前の情報提供として、社協ホームページに掲載している市内各事業所説明動画があるが、R3 年度に作成したため、新たにリニューアルを予定している。名古屋学芸大学草野先生にご協力頂き、制作の準備を行っている。 今年度の説明会で地域福祉課が説明に使用したスライドの資料を、市のホームページに掲載してはどうか。これらを活用することで参加者にとって予習となり、説明会を有意義に進めることが出来るのではないかと 言う意見が出た。 →地域福祉課の資料をホームページに掲載する件については、一度持ち帰って確認する。		

(2) 令和9年度に向けて

説明会のニーズは高いため、次年度も継続して開催する。

就労選択支援について知りたいとの意見が多かったため、継続して実施する。

パンフレット不足への対応として、QRコードを活用し、パンフレットが無くなった事業所は資料のダウンロードが出来るように検討する。

個別ブースがあった方が良いと言う意見を踏まえて、説明会と個別相談ブースを切り分け、今年度の形は継続しつつ、個別ブースについては、事業所の方が主体となり企画・設営等を行う案が出た。各事業所にご協力頂けるか、部会員（事業所の方）へ意見を伺う。

→事業所としても保護者と直接話す機会があった方が良いため、事前準備等、出来る範囲で協力したい。日進ワークキャンパス、L I L A L I C Oワークス藤ヶ丘、ポレポレハウス、コープあいちが同様の意見だった。

→次年度に向けて、検討していく。

2 子ども部会との共催について

「切れ目のない支援」のために出来ることをテーマに、協議を続ける。

今後、打ち合わせを行い、来年度の障害福祉サービス説明会について子ども部会に関わって頂く案を提案していく。

3 一般就労について

(1) 事例から見えた課題について（アクト）

①支援機関ごとに異なる対応をしていたため支援内容の統一を行い、関係機関・企業・病院等を含めたチーム支援を実施し、本人の行動改善に繋げた。

→学校卒業後から企業に就職すると、急に支援が減る。企業にどこまで求めるかが課題である。チーム支援の大切さも重要となる。

②高齢の親による支援が中心の事例を取り上げた。就労継続するためには、親亡き後への備えが必要である。

(2) 事例から見えた課題について（パッソ日進校）

一人一人の特性に合わせた雇用環境について、企業と支援機関が連携した。

(3) 就労定着するまでの流れについて（コープあいち）

組織内で障害者雇用に関わっている人材は少なく、障害者理解は進んでいないと感じる。障害者の入職が決まったら、地域の障害者相談支援センターへの登録を依頼して事前に情報を収集し、多角的に見るようにしている。各職場に職業生活相談員（知識を持つ人材）を配置している。また、雇用開始前に障害理解を広げるために現場の職員対象に説明会を行い、障害理解を深めている。

ケースとして、休みの連絡を自分で出来ない、作業能力と稼ぎたい想いが伴わない、という課題もある。

就労する上で支援機関との連携が必要と感じる。就労継続出来ても、家庭環境や地域環境が変わってくるため、どうフォローするかが課題となる。企業と支援機関の接点を増やしていく必要がある。

	(4) 障害者雇用について (ハローワーク名古屋東) ①マッチング面談会について 昨年度ハローワーク名古屋東と3自治体の共催で、民間企業と支援機関を繋げる橋渡しを行った。参加企業数は思ったより少なかった。学校関係にも依頼したが参加は無かった。内容的には好評で、支援機関と民間企業の人事の方とが顔を合わす機会は普段は無く、貴重な機会だったとの意見を聞いている。今年度も開催を予定している。 →内容が決まれば共有頂き、部会からも提案をしていく。 ②企業の障害者雇用に対する考え方について 一般的な企業の受け入れは厳しいのが現状である。 →企業側の雇用が進まない理由が分かると、部会でその内容を検討することも出来るのではないかと言う意見があがった。 →障害の特性理解と、本人と企業に留まらない関係機関の連携が重要である。 4 本日の決定事項のまとめ及び、次回の検討課題について (1) 次年度も障害福祉サービス説明会を開催し、就労選択支援についての説明も継続する。生活介護の説明や個別相談ブースの設置を検討していく。 (2) 子ども部会との連携について、子ども期から成人期への切れ目のない支援のために出来ることを検討していく。 (3) 一般就労について 就労を継続していくために、生活支援も必要であり、そのために支援機関との連携が重要になる。 企業と支援機関のネットワーク作りや、親亡き後を見据えた支援体制の構築が必要である。 企業と本人の間に専門機関が入り、障害の特性理解を深めていく。 今回の情報を踏まえて、今後も部会で取り組める内容の検討を続ける。
提出書類	別添のとおり
次回開催日時	令和8年10月21日(水)
次回会場	日進市障害者相談支援センター 大会議室

令和8年度 就労部会員名簿

番号	選任内容	氏名	所属等	備考
1	就業・生活支援センター	中屋 優	社会福祉法人ひまわり福祉会 尾張東部障がい者就業・生活支援センター アクト	
2	就労継続支援A型事業所	小山 喜久	株式会社 エール	欠
3	就労移行・就労継続支援 B型事業所	天野 祥太郎	社会福祉法人名古屋ライトハウス 日進ワークキャンパス	
4	就労継続支援B型事業所	大嶋 翔太	社会福祉法人ポレポレ 多機能型事業所 ポレポレハウス	
5	就労移行支援事業所	関屋 悠	株式会社LITALICO 就労移行支援事業所 LITALICOワークス藤が丘	
6	就労移行支援事業所	中河 智幸	Man To Man Passo 株式会社 就労移行支援事業所 パッソ日進校	
7	ハローワーク	吉川 正洋	ハローワーク名古屋東	
8	日進市商工会	鈴木 英雄	商工会	
9	愛知県立三好特別支援学校	岡田 倫和	愛知県立三好特別支援学校	
10	就労準備支援事業所	村野 政章	就労準備支援事業所 いくるば	
11	障害者就労支援者	菅原 淳	生活協同組合 コープあいち	
12	学校関係者	草野 圭一	名古屋学芸大学	
13	部会経験者	竹内 由美子	NPO法人じゃんぐるじむ	欠
14	事務局	片岡 麻里	日進市福祉部地域福祉課	
15	事務局	鈴木 雅史	日進市福祉部地域福祉課	
16	事務局	宇佐美 香津美	日進市地域生活支援センター	
17	事務局	中村 美智子	日進市子ども発達支援センター	欠
18	事務局	三宅 恵里子	日進市子ども発達支援センター	